

2024 年度 研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所
------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2024 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

国際言語文化研究所は、2024 年度においても、研究所重点プログラム、研究所独自の研究助成制度、公開講演会やシンポジウムの開催を通じて、学内外の多くの研究者を巻き込みつつ、学際的かつ国際的な研究活動を推進した。研究成果は、著書、査読付き論文、研究発表等の形で多数発表され、また研究所紀要『立命館言語文化研究』(36 巻)は全 3 号を刊行し、重点プログラムに関わる特集や個別論文を掲載した。

当研究所では、2022 年度より研究所重点プログラムを 2 本に統合しており、本年度はその 3 年目にあたる。統合後の 2 プログラムは、いずれもテーマに即した活発な研究と発信を展開した。

「歴史・移動・物語の包括的研究プロジェクト」では、演劇・漫画・辺境ラップ・先住民文化などを対象とした講演会や研究会が多数実施され、国内外からの研究者・実践者を招いたシンポジウムを通して、地域文化とグローバル文化の交錯を考察する機会が提供された。台湾文学や中国の視覚文化、日本モダニズムに関する書評会・研究会も活発に行われ、研究成果は『立命館言語文化研究』の特集号などに結実している。

「認知と表現をめぐる包括的研究プロジェクト」では、文学レジデンシー事業、ジェンダー研究、言語脳科学や言語教育研究、記憶と空間表象の分析など、多様なセクションが独自のテーマで研究を進めた。第 3 回京都文学レジデンシーでは、国内外から 10 名の作家を招聘し、朗読会や創作ワークショップを一般公開するなど、市民参加型の企画を展開した。また、秋田をフィールドとした地域芸術の研究や、日本語教育をめぐる教材分析、英語学研究なども継続され、学術と実践の接続が意識された内容となっている。

若手研究者の育成に関しても、RA の雇用や大学院生・博士研究員による研究会運営・発表の機会提供などが行われ、研究マネジメント力・発信力の養成が図られた。博士号取得後の進路として、高専や大学での教職就任が複数例実現したほか、紀要への論文執筆、新聞・雑誌等での発信も行われた。講演会やワークショップに大学院生が積極的に参加し、その成果をもとにした発表や論文執筆につながっている例も見られた。

研究成果の社会還元については、公開講座、連続講座、メディア出演、国際学会での発表など多岐にわたる。たとえば、「子どもと戦争」を扱った研究が全国放送の報道番組で紹介され、京都文学レジデンシーの企画が複数の新聞に取り上げられた。また、シドニー日本人国際学校や小学校・高校を対象とした言語習得研究の成果発表、国内外研究者の招聘による国際シンポジウム開催などを通じて、研究の公共性と波及効果が高まっている。

一方で、重点プログラム間の横断的な連携や、複数テーマを俯瞰的に統合するメタ的視点の構築については、いまだ発展途上にある。2025 年度以降の課題として、より実質的な連携の仕組みづくりや研究者間の対話の場の整備が求められる。今後も研究所としては、個別研究の深化とともに、全体の調和と相乗効果を意識したプログラム運営を継続し、国際的にも意義ある知的拠点の形成を目指していく。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2025 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）

役割	氏名	所属	職位
研究所	滝沢 直宏	言語教育情報研究科	教授
運営委	西岡 亜紀	文学部	教授
	小川 真和子	文学部	教授
	河原 典史	文学部	教授
	内藤 由直	文学部	教授
	三須 祐介	文学部	教授
	PRESTON, Nathaniel	文学部	教授
	有田 節子	言語教育情報研究科	教授
	安保 寛尚	言語教育情報研究科	教授
	阿部 朋恒	先端総合学術研	教授
	岡本 広毅	文学部	准教授
	中村 仁美	文学部	准教授
	住田 翔子	産業社会学部	准教授
	金 友子	国際関係学部	准教授
	高橋 秀寿	文学部	特別任用教授
	田浦 秀幸	言語教育情報研究科	特別任用教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	鵜野 祐介	文学部	教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	岡田 桂	産業社会学部	教授
	鳥山 純子	国際関係学部	教授
	RAJKAI, Zsombor Tibor	国際関係学部	教授
	小川 明子	映像学部	教授
	石川 まりあ	文学部	准教授
	國司 航佑	文学部	准教授
	水島 新太郎	文学部	准教授
	禰美 智章	文学部	准教授
	山本 めゆ	文学部	准教授
	JANG, Heayoung	経営学部	准教授
	山崎 遼	産業社会学部	准教授
	柳原 恵	産業社会学部	准教授
	中本 真生子	国際関係学部	准教授
	SUN Junyue	国際関係学部	准教授
	竹村 朋子	映像学部	准教授
	加部 勇一郎	食マネジメント学部	准教授

学内の若手研究者		ウェルズ 恵子	文学部	特別任用教授
		松本 克美	法務研究科	特別任用教授
		西 成彦	先端総合学術研究科	特別任用教授
		川端 美季	衣笠総合研究機構	特別招聘准教授
	① 専門研究員 研究員 初任研究員	岩本 知恵	衣笠総合研究機構	専門研究員
		中井 祐希	衣笠総合研究機構	専門研究員
		Elio Bova	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント	杉本 はなな	文学研究科	博士課程後期課程
		鷺尾 渉	文学研究科	博士課程後期課程
	③ 大学院生	森 祐香里	文学研究科	博士課程後期課程
		KAHRIMAN Sami Can	文学研究科	博士課程後期課程
		三木 菜緒美	文学研究科	博士課程後期課程
		芥川 弘樹	文学研究科	博士課程後期課程
		鄧 雅純	文学研究科	博士課程後期課程
		深石 葉子	文学研究科	博士課程後期課程
		山本 晃子	文学研究科	博士課程後期課程
		谷内 更紗	言語教育情報研究科	博士課程後期課程
		今里 基	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		後山 剛毅	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		許 鈴昕	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		福田 浩久	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		藤本 流位	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		OUYANG, Shanshan	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)	長塚 織人	衣笠総合研究機構	特別研究員 (PD)
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		阪本 佳郎	文学部	授業担当講師
		山本 真紗子	文学部	授業担当講師
		吉田 恭子	文学部	授業担当講師
		岡本 小百合	経済学部	授業担当講師
		磯部 直希	産業社会学部	授業担当講師
		大村 和正	産業社会学部	授業担当講師
		田中 直	国際関係学部	授業担当講師
		FABBRETTI MATTEO	国際関係学部	授業担当講師
		坂本 利子	映像学部	授業担当講師
		二宮 周平	法務研究科	授業担当講師
		川島 隆	産業社会学部	非常勤講師
		木下 昭	国際関係学部	非常勤講師
		佐藤 量	先端総合学術研究科	非常勤講師
		二宗 美紀	言語教育センター	嘱託講師

	Kim-Wachutka, Jackie	言語教育センター	嘱託講師
	TRAN, Thi Ngoc Quy	生命科学部	任期制教員(助教)
客員協力研究員	中川 成美	立命館大学	名誉教授 上席研究員
	玉野井 麻利子	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	名誉教授
	宮下 和子	鹿屋体育大学	名誉教授
	姫岡 とし子	東京大学	名誉教授
	土肥 秀行	東京大学	准教授
	加藤 昌弘	名城大学	准教授
	櫻澤 誠	大阪教育大学	准教授
	今野 裕子	亜細亜大学	准教授
	海寶 康臣	九州歯科大学	講師
	栗山 雄佑	佐世保工業高等専門学校	講師
	青木 耕平	愛知県立大学	講師
	堤 涼子	常葉大学	講師
	堀江 有里	公益財団法人世界人権問題研究センター	専任研究員
	大野 藍梨	神戸学院大学、常翔啓光学園高等学校	非常勤講師
	岡田 理恵子	大手前短期大学	非常勤講師
	田中 壮泰	東海大学	非常勤講師
	佐藤 麻衣	日本橋中学校	非常勤講師
	鳥木 圭太	龍谷大学	非常勤講師
	大形 綾	関西大学	特別研究員(RPD)
	FARNE, Federico	東京大学	特別研究員(RPD)
	中西 美穂	一般社団法人 HAPS	リサーチャー
	ELIAS, Cecilia	Asociación Argentina de Profesores de Técnica Alexander (AAPTA)	現代舞踏家
その他の学外者	池内 靖子	立命館大学	名誉教授
	仲間 裕子	立命館大学	名誉教授
	坂口 満宏	京都女子大学	名誉教授
	野村 眞理	金沢大学	名誉教授
	上野 千鶴子	東京大学 認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)	名誉教授 理事長
	三木 順子	神戸女学院大学	教授
	岡野 八代	同志社大学	教授

	木村 朗子	津田塾大学	教授
	河田 学	京都芸術大学	教授
	森 慎一郎	京都大学	教授
	湊 圭史	松山大学	教授
	久野 量一	東京外国語大学	教授
	飯島 真里子	上智大学	教授
	中田 一志	大阪大学	教授
	中村 隆之	早稲田大学	教授
	志賀 恭子	熊本大学	特任教授
	泉谷 瞬	近畿大学	准教授
	岩川 ありさ	早稲田大学	准教授
	YANG, Insil	岩手大学	准教授
	LIONG, Mario	国立台北大学	准教授
	江南 亜美子	京都芸術大学	准教授
	澤西 祐典	龍谷大学	准教授
	藤井 光	東京大学	准教授
	原 佑介	金沢大学	准教授
	今野 裕子	亜細亜大学准教授	准教授
	松本 理美	大阪樟蔭女子大学	准教授
	仲間 絢	京都大学	特定准教授
	倉本 知明	文藻外語大学	副教授
	橋本 真佐子	沼津工業高等専門学校	助教
	FASSBENDER, Isabel	関西外国語大学	助教
	秋山 かおり	大阪大学	助教
	金 昇淵	大阪公立大学	特任助教
	武田 悠希	舞鶴工業高等専門学校	講師
	松田 佑治	名古屋学院大学	講師
	CHLOE, Bellec	東北大学	講師
	猪熊 慶祐	国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校	講師
	桐原 翠	京都府立大学	講師
	西脇 幸太	岐阜聖徳学園大学	専任講師
	山口 真紀	神戸学院大学	特任講師
	ZHUANG, Jiechun	惠州学院(中国)	専任教員
	大谷 通高	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	研究推進員
	中村 雪子	横浜国立大学	特別研究員(PD)

	番匠 健一	社会理論動態研究所	専門研究員
	吉村 季利子	京都大学大学院	博士課程後期課程
	奥田 素子	公益財団法人琵琶湖芸術文化財団	主査
	WANG, Yang		独立研究者
研究所構成員 計 142 名 (うち学内の若手研究者 計 20 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。
本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2025 年 3 月 31 日時点)
また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	河原 典史	移民の衣食住Ⅱ―海を渡って住むこと―	共著	2025 年 3 月	文理閣	佐藤量	pp. 1-246
2	西 成彦	移動文学論Ⅲ 多言語的なアメリカ	単著	2024 年 5 月	作品社	石川達夫編、貝澤哉・奈倉有里・西成彦・前田和泉著	pp. 1-265
3	西 成彦	カフカ、なまもの	単著	2024 年 6 月	松籟社	稲垣健志	pp. 1-214
4	安保 寛尚	ラテンアメリカ文学を旅する 58 章	共著	2024 年 5 月	明石書店	久野量一・松本健二編	pp. 193-200
5	安保 寛尚	辺境のラッパーたち	共著	2024 年 7 月	青土社	島村一平編	pp. 211-239
6	安保 寛尚	キューバを知るための 50 章	共著	2025 年 3 月	明石書店	後藤政子編	pp. 210-214
7	鵜野 祐介	ナラティヴ・ポリティクスとしての異人論 不寛容時代の〈他者〉をめぐる物語	共著	2024 年 11 月	臨川書店	山泰幸・西尾哲夫他	pp. 304-331
8	鵜野 祐介	世界の昔話を知るために！	共著	2025 年 1 月	三弥井書店	石井正己他	pp. 215-221
9	岡本 広毅	西洋中世文化事典(分担執筆「文学の中の中世」)	共著	2024 年 12 月	丸善出版	西洋中世学会編	pp. 562-563
10	ウェルズ 恵子	おとぎ話はなぜ残酷でハッピーエンドなのか	単著	2024 年 12 月	岩波ジュニア新書		
11	加藤 昌弘	ゆさぶるカルチュラル・スタディーズ	共著	2024 年 1 月	北樹出版	稲垣健志	pp. 48-56
12	栗山 雄佑	村田沙耶香（現代女性作家読本, 21）	共著	2024 年 5 月	鼎書房	スペッキオ・アンナ他	
13	栗山 雄佑	又吉栄喜の文学世界	共著	2024 年 4 月	コールサック	ドリアン助川, 八重洋一郎, 村上陽子, 鈴木比佐雄, 高柴三聞, 大城貞俊, 与那覇恵子, 呉世宗, 山西将矢, 関立丹, 仲井眞建一, 岡本勝人, 柳井貴士, 小嶋洋輔, 郭炯徳, 玉木一兵, 高良勉, 長嶺幸子, 仲程昌徳	
14	田中 壮泰	二匹のけだもの/なけなしの財産 他五篇	共訳	2024 年 5 月	幻戯書房	ドヴィド・ベルゲルソン、デル・ニステル（原著者）、赤尾光春	pp. 1-400

						(共訳者)	
15	中村 隆之	マニフェスト 政治の詩学	単訳	2024 年 4 月	以文社	E・グリッサン、P・シャ モワノー 著	pp. 1-216
16	中村 隆之	カリブ海序説	共訳	2024 年 11 月	インスクリプト	E・グリッサン著、星埜 守之、塚本昌則(共訳 者)	pp. 1-768
17	三須 祐介	近未来短篇集(台湾文学コ レクション1)	単訳	2024 年 7 月	早川書房	伊格言他著	pp. 1-352
18	Yuko Nakama	Caspar David Friedrich, Wo alles begann	共著	2024 年 8 月	Die Staatlichen Kunstsammlungen Dresden	Holger Birkholz, Petra Kühlmann Hodick, Stephanie Buck, Hilke Wagner 他 20 名	pp. 110-111
19	橋本 真佐子	『月映』の三人—生と死をめ ぐる協働的創作活動	単著	2025 年 3 月	エディション・エフ		
20	住田 翔子	オセアニア文化事典	共著	2024 年 10 月	丸善出版	オセアニア文化事典 編集委員会	pp. 456-457
21	澤西 祐典	芥川龍之介における海外文 学受容：旧蔵書越しに見 える風景	単著	2025 年 3 月	ひつじ書房		
22	川島 隆	ハイジの生みの親ヨハン ナ・シュピーリ	単著	2024 年 8 月	青弓社		
23	岩川 ありさ	養生する言葉	単著	2025 年2月	講談社		
24	川端 美季	風呂と愛国——「清潔な国 民」はいかに生まれたか	単著	2024 年 10 月	NHK 出版		
25	岩本 知恵	『現代女性作家読本 金原 ひとみ = Kanehara Hitomi』、担当範囲「『ウィ ーヴァームス』—〈間—私〉小 説としての地平—」	共著	2024 年 12 月	鼎書房	泉谷瞬編	
26	鳥山 純子	『「アラブの春」のアクチュア リティ エジプト一月二十五 日革命を中心にみるグロー バリゼーション下の日常的 抵抗』(分担執筆「第 8 章 家族関係から考える、広義 の『一月二十五日革命』」)	共著	2024 年 7 月	山川出版社	大稔哲也編	pp. 216-234
27	Junko TORIYAMA	<i>Tamo #1</i> Rabat (分担執筆 “Neo-Patriarchy or Ultimate Love?: Thinking mommy's boy culture in Morocco”.)	共著	2024 年 12 月	Morocco: Kulte Editions	Naji, Yasmina (Ed.)	pp. 50-75
28	欧陽 珊珊	『クィア・スタディーズをひら く 3』(分担執筆「第5章「残 酷児」——台湾における障害 のある性的少数者の実践」)	共著	2023 年 3 月	晃洋書房	菊地夏野・堀江有里・ 飯野由里子編著	pp. 108-135
29	堀江 有里	法律婚って変じゃない？ ——結婚の法と哲学	共著	2024 年 6 月	信山社	山田八千子編	pp. 260-301
30	堀江 有里	グローバル化と日本(グロー バル・スタディーズ叢書・第 4 巻)	共著	2024 年 11 月	東信堂	内海博文編	pp. 217-242
31	堀江 有里	ジェンダー・セクシュアリティ (岩波講座社会学・第 5 巻)	共著	2025 年 1 月	岩波書店	丸山里美・山根純佳 編	pp. 99-125
32	岡田 桂	わたしたち、体育会系 LGBTQ です :9 人のアス リートが告白する「恋」と「勝 負」と「生きづらさ」	共著(監 修)	2024 年 7 月	集英社インターナショナル	田澤健一郎	
33	栗山 雄佑	又吉栄喜の文学世界 (担当箇所:〈闘争〉を求めら れる檻の中で —— 又吉栄喜 「カーニバル闘牛大会」論)	共著	2024 年 4 月	コールサック社	ドリアン助川, 八重洋 一郎, 村上陽子, 鈴 木比佐雄, 高柴三郎, 大城貞俊, 与那覇恵 子, 呉世宗, 山西将 矢, 関立丹, 仲井真	pp. 154-169

						建一, 岡本勝人, 栗山雄佐, 柳井貴士, 小嶋洋輔, 郭炯徳, 玉木一兵, 高良勉, 長嶺幸子, 仲程昌徳	
34	栗山 雄佑	村田沙耶香 (現代女性作家読本, 21) (担当箇所:「ギンイロノウタ」—ギンイロのステッキが向く先は—)	共著	2024 年 5 月	鼎書房	スペッキオ・アンナ (編)	pp. 26-29
35	柳原 恵	日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム	共著	2025 年 3 月	中南米マガジン	水口良樹、柳原恵、洲崎圭子編	p. 162
36	柳原 恵	チリ・女子学生たちが引き起こしたフェミニズムの「津波」 『日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム』所収	単著	2025 年 3 月	中南米マガジン		p. 4
37	柳原 恵 (監訳)	ブダウエル区 (チリ、サンティアゴ) における マプーチェ・フェミニズムの出現に関する考察『日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム』所収	共著	2025 年 3 月	中南米マガジン	カリナ・アウマーマダ・パイラウエケ (訳 三島玲子、監訳 柳原恵・洲崎圭子・水口良樹)	p. 15
38	飯島 真里子	コナコーヒーのグローバル・ヒストリー 太平洋空間の重層的移動史	単著	2025 年 2 月	京都大学学術出版会		pp. 1-333
39	高橋 秀寿	転換する戦時暴力の記憶	単著	2024 年 10 月	岩波書店		

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	河原 典史	次世代の水産業の振興に向けた現状と展望—愛媛県水産業の取り組みから考える—	単著	2024 年 5 月	地域漁業研究、64 巻 1 号		pp. 1-3	
2	河原 典史	カナダ日本人ガーディナーの雇用システムと技術導入—日本庭園との関係性をめぐる考察—	単著	2024 年 5 月	『民俗建築』、第 165 号		pp. 92-99	
3	河原 典史	『グランドフォークス在留日本人記念写真帖』から読み解く日本人移民の自活移動プロジェクト—その予察的考察—	単著	2024 年 9 月	カナダ研究年報、第 44 号		pp. 75-84	
4	河原 典史	鼎談 地図からみる交通—地図で読む・地図で歩く「まちと鉄道」—	共著	2025 年 2 月	『運輸と経済』、85 巻 2 号	蜂谷あす美 加藤誠一	pp. 6-14	
5	河原 典史	バンクーバーにおける日本人移民社会とスペイン風邪—日本語新聞『大陸日報』からの分析—	単著	2025 年 3 月	『移民の衣食住Ⅱ—海を渡って住むこと—』	佐藤量	pp. 90-111	
6	鵜野 祐介	金子みすゞ童謡にみるわらべうたの影響	単著	2024 年 5 月	うたとかたりの研究会 論叢うたとかたり 第 6 号		pp. 3-24	無
7	鵜野 祐介	物語パフォーマンスの場におけるリ	単著	2024 年 9 月	青土社 現代思想 vol.52-12		pp. 149-159	無
8	ウェルズ 恵子	黒人霊歌—自由を求めた人々の歌	単著	2024 年 4 月	全日本合唱連盟 ハーモニー第 208 号			
9	加藤 昌弘	高橋香苗著『ギャルであり、ママである』: 自分らしさと母親らしさをめぐって	単著	2024 年 12 月	人間学研究 第 22 号			

10	加藤 昌弘	カウンターカルチャーとしての歴史家協会:あるいは関西の学会・研究会文化へのノスタルジア	単著	2025年3月	歴史家協会年報 解散記念号			
11	猪熊 慶祐	見て、歩いて、思いをめぐらす—アメリカで考える笑いの行き先	単著	2025年3月	黒人研究学会会報 第98号			
12	猪熊 慶祐	ヴォードヴィルに先駆けて—ミンストレルショーの「オセロ」における形式の変遷とクリスティズ・ミンストレルズの先見性—	単著	2024年7月	日本比較文化学会 比較文化研究 第156号		pp. 115-126	有
13	田中 壮泰	キャロル・ギリガンの方法:コールバーグ、フロイト、そしてアンネ・フランク	単著	2025年3月	臨床哲学ニューズレター 7号		pp. 30-41	
14	田中壮泰ほか	「お隣さんの顔」他五篇	翻訳	2025年2月	現代詩手帖	クリスティーナ・ドンブロフスカ著	pp. 31-35	
15	田中 壮泰	〔書評〕「長らく忘れられていた女たちの記憶:あるべき未来を考えるために」(ジュディ・パトリオン『ゲッターの娘たち:ナチスに抵抗したユダヤ人女性の知られざる歴史』羽田詩津子訳、国書刊行会、2024年)	単著	2025年3月	週刊読書人		6面	
16	田中 壮泰	ホロコーストのさまざまな「ミッシングリンク」	単著	2024年11月	『立命館言語文化研究』36巻2号		pp. 21-24	
17	後山 剛毅	書評 死者の声を聴くこと	単著	2024年11月	『立命館言語文化研究』36巻2号		pp. 29-32	
18	後山 剛毅	〔書評〕Ran Zwigenberg, Nuclear Minds: Cold War Psychological Sciences and the Bombings of Hiroshima and Nagasaki	単著	2024年8月	『立命館アジア・日本研究学術年報』5号		pp. 227-230	
19	後山 剛毅	〔書評〕『終わっていない、逃れられない〈当事者たち〉の震災俳句と短歌を読む』	単著	2025年2月	『原爆文学研究』23号		pp. 198-200	
20	後山 剛毅	〔書評〕仙波希望『ありふれた〈平和都市〉の解体 広島をめぐる空間論的探究』	単著	2025年3月	『立命館大学国際平和ミュージアム紀要』26号		pp. 179-182	有
21	栗山 雄佑	〈不随意的な足〉から規範を攪乱するために——大江健三郎「他人の足」論——	単著	2025年3月	『近代文学論集』(第50号)			
22	栗山 雄佑	天皇を追う〈母の狂気〉を描く娘—作家—母の記憶はいかにして〈文学〉となったのか(特集「原爆文学」再読 10—後藤みな子『高円寺へ』)	単著	2025年2月	『原爆文学研究』(第23号)		pp. 136-150	

23	福島 亮	『植民地主義論』をいま読み返す:ジェノサイド, 奴隷制, 植民地主義をめぐる状況認識のために	単著	2024 年 11 月	『立命館言語文化研究』36 巻 2 号		pp. 33-37	
24	野村 真理	歴史研究と文学	単著	2024 年 11 月	『立命館言語文化研究』36 巻 2 号		pp. 39-43	
25	西 成彦	「ホロコースト研究をユダヤ研究に囲い込まないために」を終えて	単著	2024 年 11 月	『立命館言語文化研究』36 巻 2 号		pp. 45-48	
26	西 成彦	中南米は日本から遠くない	単著	2025 年 3 月	『植民地文化研究』23 号	久野量一	pp. 274-291	
27	岡本小百合	夢素の探求-吉増剛造展「ネノネ」展	単著	2024 年 8 月	思潮社、『現代詩手帖』			
28	岡本小百合	石をポケットに(特集:吉増剛造)	単著	2025 年	慶應義塾大学出版部、『三田文学』、2025 年冬号(160 号)			
29	三須 祐介	同志文学の当事者性について	単著	2024 年 11 月	思潮社、『現代詩手帖』、2024 年 11 月号		pp. 104-107	
30	三須 祐介	演じる身体、演じられる欲望——黄蜀芹『舞台女優』を中心に——	単著	2025 年 3 月	『未名』(第 43 号)		pp. 1-29	
31	有田 節子	書評「Emi Takamori 著 Análisis de usos de partículas japonesas wa y ga basado en corpus de estudiantes españoles」	単著	2025 年 3 月	立命館言語文化研究 36 巻 3 号		pp. 125-137	有
32	TAURA, Hideyuki	Quadrilingual Language Progression and Regression from a Neurolinguistic CDST Perspective	共著	2024 年 11 月	立命館大学国際言語文化研究所, 立命館言語文化研究, 36 巻 2 号	LI, Siukun	pp. 107-118	有
33	TAURA, Hideyuki	Examining Bilingual Language Processing, Using both Physiological and Conventional Linguistic Approaches	単著	2024 年 7 月	立命館大学国際言語文化研究所, 立命館言語文化研究, 36 巻 1 号		pp. 3-12	有
34	滝沢 直宏	言語研究のデータ獲得3: コーパス	単著	2024 年 7 月	立命館大学国際言語文化研究所, 36 巻 1 号		pp. 85-95	無
35	滝沢 直宏	現代英語における分離不定詞について	単著	2025 年 3 月	立命館大学国際言語文化研究所, 36 巻 3 号		pp. 77-87	無
36	仲間 裕子	アンゼラム・キープアー、再生のはじまりへ——「アートは廃墟を生き延びる」	単著	2025 年 3 月	『立命館言語文化研究』、立命館大学国際言語文化研究所、36 巻 3 号		pp. 47-62	無
37	竹中 悠美	写真と庭の親和性 — シアン・デイヴィーの庭プロジェクトについて	単著	2025 年 3 月	民族藝術学会誌 arts/, vol.41		pp. 154-157	無

		てー						
38	住田 翔子	廃墟の記憶のドキュメンテーション——秋田における廃墟へのまなざしに注目して	単著	2025年3月	立命館大学国際言語文化研究所 立命館言語文化研究 36 (3)		pp. 63-75	無
39	山本 真紗子	「明治時代外国人貴賓の京都訪問と美術工芸商」	単著	2024年7月	『近代京都の美術工芸Ⅱ—学理・応用・経営』思文閣出版、	並木誠士編	pp. 317-339	無
40	山本 真紗子	「山中商会の西洋美術工芸品輸入とその意義：昭和3年「美術工芸品展覧会—欧米最新考案」を中心に」	単著	2024年8月	『デザイン理論』84	意匠学会	pp. 39-53	有
41	中西 美徳	"癒し"のリレーを可視化する：ホスピタルアート展から考える病院における文化権	共著	2025年1月	社会文化研究会,社会文化研究,27号	川西 真寿実	pp. 23-42	無
42	藤本 流位	サンティアゴ・シエラの実務的労働と拷問的戯れ——「報酬の支払われた行為」におけるレイバーとワーカーの区別から——	単著	2025年1月	美学会, 美学, 75巻2号		pp. 61-72	有
43	仲間 絢	13 世紀ドイツ・ゴシック彫刻の眼差しに関する考察—「愛の矢」の視覚性と祈念	単著	2025年2月	東京藝術大学西洋美術史研究室紀要『Aspects of problems		pp. 63-71	有
44	金 友子	書評 朴一『在日という病 — 生きづらさの当事者研究』	単著	2024年5月	国際高麗学会『コリアン・スタディーズ』 (12)		pp. 131-134	無
45	岩川 ありさ	「傷と回復について：ハン・ガン「回復する人間」	単著	2025年1月	『ユリイカ』 57(1)		pp. 56-63	無
46	岩川 ありさ	「未来のあなたへ投げかけなおす：大江健三郎「雨の木(レイン・ツリー)」を聴く女たち」	単著	2024年	『社会文学』(60)		pp. 81-94	無
47	岩本 知恵	「定員のない方舟——『方舟さくら丸』論」	単著	2024年9月	『現代思想』11月臨時増刊号、青土社		pp. 153-163	無
48	岩本 知恵	「雄弁な「沈黙」——植民地主義批判としての安部公房「友達」論」	単著	2025年3月	占領開拓期文化研究会、『フェンスレス』第8号		pp. 23-38	無
49	鳥山 純子	「書評 クォンキム・ヒョンヨン編『被害と加害のフェミニズム: #Me Too以降を展望する』	単著	2024年8月	『立命館アジア・日本研究 学術年報』第5号		pp. 176-180	無
50	欧陽 珊珊	『「障害のある性的少数者」の若者がいかに社会運動に参加しているか——日本とドイツにおける LGBT 運動の比較から」	単著	2024年11月	山岡記念財団,『日欧若者文化・ライフスタイル研究4巻』	田野大輔・吉田純編	pp. 9-17	無
51	OUYANG, S.	Breaking Windows and Mirrors: the LGBTQ+/Disability Community's Representation in Japanese Media	共著	2024年10月	Asia-Japan Research Academic Bulletin, vol.5	ROBINSON, R and Stuart B. KAMENETSKY	pp. 31-47	有
52	欧陽 珊珊	「カミングアウトをめぐる可変的な交渉過程: ある障害をもつ男性同性愛者の経験を事	単著	2024年3月	国際基督教大学ジェンダー研究センター,『ジェンダー&セクシュアリティ』, 19巻		pp. 47-68	有

		例に」						
53	欧陽 珊珊	「障害とセクシュアリティの交差についての考察：台湾の肢体障害/男性同性愛者の経験から」	単著	2021年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科,『コア・エシックス』,17巻		pp. 51-63	有
54	堀江 有里	キリスト教会における排除と序列 ―信仰職制としての「教師問題」を手がかりに	単著	2025年3月	花園大学人権教育研究センター, 人権教育研究, 第33号		pp. 25-51	無
55	岡田 桂	「スポーツ／学校体育とジェンダー：近代スポーツの性別二元制と女子児童・学生のキャリア選択にかかわる格差から」	単著	2024年7月	子どもと発達発達, 22巻2号、杏林書院		pp. 101-106	有
56	岡田 桂	「男性性をセクシュアリティから見つめ返す：スポーツ／近代的男性性のケア理論による再検討」	単著	2024年5月	現代スポーツ評論、50号、創文企画		pp. 30-44	無
57	岡田 桂	「スポーツ競技と性／公平性の境界：競技“カテゴリー”の妥当性を問う議論」		2024年3月	スポーツとジェンダー研究、22巻		pp. 53-57	無
58	栗山 雄佑	天皇を追う〈母の狂気〉を描く娘―作家―母の記憶はいかにして〈文学〉となったのか	単著	2025年2月	原爆文学研究 第23号		pp. 136-150	無
59	栗山 雄佑	〈不随意な足〉から規範を攪乱するために ―大江健三郎「他人の足」論―	単著	2025年3月	近代文学論集 第50号		pp. 79-93	有
60	梁 仁實	「トランス/ローカルシネマとしての済州4・3映画」	単著	2024年.5月	九州大学朝鮮史学研究室編『年報 朝鮮学』(26)		pp. 1-25	
61	柳原 恵	夢想し、行動する―『私の想う国』が映すチリの現在	単著	2025年3月	映画『私の想う国』パンフレット	UPLINK	pp. 34-36	無
62	柳原 恵	“共に闘わん！” ―ウーマンリブにおける生理用品無料設置要求運動の活動と思想	単著	2024年11月	現代思想 52(18)		pp. 162-176	無
63	柳原 恵	聞き書きが拓く地域女性史	単著	2024年8月	歴史評論	歴史科学協議会編	pp. 17-28	無
64	吉田 恭子	論考と提言：知らない言語で書かれた文学についていかに語るか…(1)多言語翻訳ワークショップ	単著	2025年3月	『英文学評論』97巻、京都大学大学院人間・環境学研究科英語部会		pp. 25-32	
65	吉田 恭子	間違い電話じゃなかった	単著	2024年8月	『ユリイカ = Eureka』56 (10)		pp. 88-96	
66	澤西 祐典	「妙な句を漂はせ」る言葉との遭遇。：芥川龍之介	単著	2025年2月	『東京人』40 (3)		pp. 11-15	
67	澤西 祐典	〈プロメテウス〉から〈地獄変〉へ：ピエール・ルイスから芥川龍之介・永井荷風・谷崎潤一郎へ受け継がれたもの	単著	2024年10月	『国語国文』93 (10)		pp. 41-58	

68	澤西 祐典	鼎談 琵琶湖を読む、 琵琶湖を書く	共著	2024年10 月	『文學界』78 (10)	円城塔・福永信	pp. 106-118	
69	澤西 祐典	日本国内のAIRの可 能性と社会的課題	単著	2024年6月	『龍谷大学国際社会文化研究 所紀要』26		p. 255-	
70	藤井 光	対談 オースターをど ともに読む	共著	2024年8月	『ユリイカ = Eureka』56 (10)	柴田元幸	pp. 59-72	
71	江南 亜美 子	小説が書きうることの 探求	単著	2025年3月	『文學界』79 (3)		pp. 85-87	
72	江南 亜美 子	「わたし」はひとつの ポータル(第2-10回 毎月連載)	単著	2024年4月 -2025年2 月	『文學界』 78 (4)-79 (2)			
73	江南 亜美 子	ハン・ガン、歴史の証 言と沈黙を描く作家	単著	2025年1月	『ユリイカ = Eureka』57 (1)		pp. 115-119	
74	江南 亜美 子	対談 バク・ジュン×岡 野大嗣：短詩系文学 で世界の美しさをつ かまえる	共著	2024年12 月	『すばる』46 (12)	バク・ジュン、岡野 大嗣	pp. 166-179	
75	江南 亜美 子	対談 いま文学を学ぶ 人たちに	共著	2024年6月	『文學界』78 (6)		pp. 140-155	
76	中村 仁美	バリー・マクレー「ショ ーン・オリーダーイン の私的言語」(部分 訳)	単著	2025年3月	『立命館言語文化研究』 36 (3)		pp. 139-153	
77	中村 仁美	生き方(ライフスタイル)としてのプラグマ ティズム—ジェイム ズ兄弟妹(シプリング ス)を読む—	単著	2024年12 月	『神戸市外国語大学外国学研 究』(95),		pp. 137-156	
78	川島 隆	カフカとシオニズム	単著	2024年7月	『学会会報』 2024 (4)		pp. 36-40	
79	西岡 亜紀	【書評】高橋誠一郎他 [編]『堀田善衛研究 論集——世界を見据え た文学と思想(桂書 房、二〇二四 年)』	単著	2025年3月	『比較文学』67巻		pp. 129-132	
80	小川 真和 子	Sampan and Uncle Sam: The Collaboration and Confrontation between Hawaii and Washington during the Mid- Twentieth Century over Japanese Sampan Fishing in Hawaiian Waters	単著	2025年1月	University of Hawaii Press, <i>Oceanic Japan: The Archipelago in Pacific and Global History</i> ,		pp. 239-251	
81	番匠 健一	「原野」と「湿原」をめ ぐる風景の文化政治	単著	2025年3月	『社会学雑誌』41号			
82	番匠 健一	評伝 原野へのあこ がれと離農を描く静か な怒り	単著	2025年1月	『農民文学』338号			
83	岡田 理恵 子	Functional alterations of lateral temporal cortex for processing voice prosody in adults with autism spectrum disorder	共著	2024年9月	Cerebral Cortex 34-9	Ryu-ichiro Hashimoto, Ryuta Aoki,Motoaki Nakamura, Haruhisa Ohta,Takashi Itahashi		有

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	河原 典史	グランドフォークスの日本人居住者からみる強制移動の再検討	2024 年 5 月	“From Mio” : Community based Public History Symposium、旧三尾小学校(和歌山県美浜町)	
2	河原 典史	カナダ西岸における日本庭園の様式にみるデザインの変遷	2024 年 6 月	一般社団法人日本民俗建築学会 第 51 回大会、喜多方プラザ文化センター	堤 涼子
3	河原 典史	植民地期朝鮮における缶詰製造業―竹中缶詰製造所を中心に	2024 年 9 月	2024 年日本地理学会秋季学術大会、南山大学	
4	安保 寛尚	キューバの元奴隷詩人フアン・フランシスコ・マンサノの詩における夢想と飛翔について	2025 年 1 月	第 212 回東京スペイン語文学研究会、立教大学	
5	鵜野 祐介	蓮如上人の子守唄「優女」と中世芸能	2024 年 6 月	日本子ども社会学会 第 30 回大会 日本女子大学	
6	鵜野 祐介	稲田浩二の新タイプ・インデックス構想と〈天道さん金の綱〉	2024 年 11 月	アジア民間説話学会 第 19 回大会 立命館大学 OIC	
7	岡本 広毅	Social Integration and Anglo-Scandinavian Identity in the Story of Havelok	2024 年 12 月	日本中世英語英文学会第 40 回全国大会シンポジウム 福井大学	Tsukusu Ito・Richard North・Sayaka Matsumoto
8	鷲尾 渉	ゴシック小説における西欧中世イメージ: <i>The Vampyre</i> と貴族的ヴァンパイアの登場について	2025 年 3 月	中世関連文化研究会 立命館大学衣笠キャンパス	
9	加藤 昌弘	スポーツのファンダム:クルマ文化と F1	2024 年 5 月	文化を「まじめに」考える(ジュンク堂名古屋栄店)	稲垣健志・清水友理子・杉浦清文・立石祥子
10	加藤 昌弘	ブリティッシュネスを〈編み込む〉:『ロイヤル・エディンバラ・ミリタリー・タトゥー』が描くスコティッシュ・ディアスポラの歴史的想像力	2024 年 6 月	政治経済学・経済史学会 兵器産業・武器移転史フォーラム	
11	猪熊 慶祐	イアゴーのトリックスター性が暴く欲望―クリスティーズ・ミンストレルズの「オセロ」にみる異人種混淆―	2024 年 11 月	中四国アメリカ学会 第 52 回大会	
12	栗山 雄佑	大江健三郎「他人の足」論―原水爆禁止運動に関わる「脊椎カリエスの子供たち」をめぐって	2024 年 6 月	2024 年度日本近代文学会九州支部春季大会	
13	國司 航佑	イタリアにおける抒情詩概念をめぐる研究の動向	2024 年 9 月	日本比較文学会関西支部	
14	國司 航佑	イタリアにおける「ヘーゲル美学」の受容をめぐる―デ・サンクティスの文学理論を中心に	2024 年 7 月	日本シェリング協会 第 33 回大会	
15	後山 剛毅	リフトンの原爆芸術論―日本の原爆文学論との比較を通じて	2024 年 12 月	ミニシンポジウム「人間の精神にとって原爆とは何だったか?―ラン・ツヴァイゲンバーク氏(Ran Zwigenberg, ペンシルベニア州立大学准教授)の基調講演と研究報告―」(立命館大学生存学研究所)	
16	有田 節子	佐賀西部方言の条件節の時制とモダリティ	2024年12月	日本語文法学会第25回大会	
17	有田 節子	日本語条件節の時制とモダリティ	2024年7月	中部日本・日本語学研究会第93回大会	
18	TAURA, Hideyuki	In-Person vs. Online Human Interaction: Insight from a Neuro-linguistic Study on a Simultaneous Interpreter	2025年3月	Discoveries and Dialogues: Online Exchanges in Foreign Language Learning at Institut National des Langues et Civilisations Orientales, Paris	

19	TAURA, Hideyuki	The Effect of Fetal Language Experiences on Neonates' Perception of their Two Languages L1 Community and L2 Heritage: A Neuro-linguistic Study	2025年3月	Bilingualism Matters Conference at Edinburgh University, UK	
20	TAURA, Hideyuki	Capturing a Big Picture of a Simultaneous Japanese-English Bilingual: A Preliminary Study Collecting Both Behavioural and Neurolinguistic Data	2024年12月	AMLaP (Architectures and Mechanisms for Language Processing) Asia at National University of Singapore	
21	TAURA, Hideyuki	Processing Differences in Early and Late Bilinguals as Revealed from Linguistic and Neurolinguistic Data	2024年5月	The 5th International Symposium on Bilingual and L2 Processing in Adults and Children at Swansea University, UK	
22	滝沢 直宏	固有名詞を「the 修飾句 普通名詞」で言い換える表現効果	2024年11月	現代英語談話会(第102回)	
23	滝沢 直宏	of which there are many のofの正体	2025年3月	現代英語談話会(第104回)	
24	竹中 悠美	浮世としての家庭空間—勝川春章《婦女風俗十二ヶ月図》の構図をめぐる試論	2024年4月	第132回国際ARCセミナー(オンライン)	
25	Yumi K. Takenaka	Collective Images in Social Changes from Photography in 20th Century to Ukiyo-e in 18th Century	2024年7月	Guest Lecture by Visiting Scholar in Nottingham School of Art & Design, Nottingham Trent University (Online)	
26	竹中 悠美	勝川春章『婦女風俗十二ヶ月図』における〈俗〉の考察——構図分析と先行作品との関連から	2024年10月	美学会全国大会、大阪大学中之島センター	
27	中西 美穂	日本占領下におけるフィリピンのミュージアムコレクションへのまなざし	2025年3月	第9回日本アートマネジメント学会九州部会・文化経済学会<日本>九州部会連携企画 研究発表会, 熊本市現代美術館 会議研修室	
28	橋本 真佐子	「同人雑誌『月映』における詩と版画の関係—田中恭吉《絢はれゆく歓喜と悲愁》と「寥人孤詠」を中心に—」	2024年6月	第86回日本比較文学学会全国大会(愛知学院大学)	
29	藤本 流位	死体の生の承認——テレサ・マルゴレスの《クリーニング》を中心にして	2024年7月	表象文化論学会 第18回大会, 関西学院大学	
30	Aya Nakama	Arabic Optics and Representations of the Sacred in the Works of Jan van Eyck (c. 1395-1441)	2025 年3月	アメリカ中世学会創立百周年記念大会 (MAA 2025 Annual Meeting: Celebrating 100 Years, Medieval Academy of America)、ハーバード大学	
31	金 友子	在日2世のライフヒストリーと韓学同——「在日という病」を中心に	2024年9月	北東アジア学会学術研究大会、大阪商業大学(大阪府東大阪市)	
32	金 友子	「マイクロアグレッション」が日本社会に与えたインパクト:理解・誤解・反発	2024年9月	第40回日本解放社会学会大会、中京大学(愛知県名古屋市)	
33	Wooja KIM	The Struggle of Second-Generation Zainichi Women against “Double Oppression” in an Ethnic Community	2024年8月	International Federation for Research in Women's History 2024 Conference, Sendagaya Campus-Tsuda University, Tokyo, Japan	

34	金 友子	「気にしない」は差別なのか	2024年6月	全国大学同和教育研究協議会 2024年度 春季公開シンポジウム、龍谷大学 大阪梅田キャンパス(大阪市)	
35	岩川 ありさ	「シェイクスピアの妹たちへ」	2024年7月	日本ヴァージニア・ウルフ協会第129回(2024年7月)例会、一橋大学	司会, 中井亜佐子, 提題者, 松永典子, 松本夏織, 三村尚央, 音順 コメントータ, 岩川ありさ, 長島確
36	岩川 ありさ	「危機のなかで書くこと——Virginia Woolfから『小山さんノート』まで」	2024年5月	日本英文学会第96回大会シンポジア第7部門「危機の時代と批評」	ハーン小路恭子, 木原善彦, 佐久間由梨, 岩川ありさ
37	庄捷 淳	史実と想像の間——日本平安後期文学によって継承され、開拓された中国「男装」のモチーフ	2025年1月	2024年度東文学、東洋語文学と東西文明の対話シンポジウム、中国広東外語外貿大学	
38	張 瑋容	「ファンタジーか現実か？日本とタイのBLドラマにおける男同士の親密関係の表現に関する考察」	2024年12月	社会文化学会、日本・立教大学	
39	鳥山 純子	「イスラーム・ジェンダー学 科研と考えるコロナリティー インターセクショナルリティ偏重批判と第三世界フェミニズムの再考から」	2024年4月	東京外国語大学AA研共同利用・共同研究課題『現代世界の分断と共生の検討：イスラーム・ジェンダー学のアプローチから』、東京外国語大学本郷サテライトキャンパス	
40	TORIYAMA, Junko	“From a Gender Norm to the Heritage: A Case of Moroccan Mom's Boy”,	December, 2024.	in the Panel “ Heritage-Making: A New Perspective for the Contemporary Middle Eastern Studies” in AFMA, at Doshisha University,	
41	欧陽 珊珊	关于身障性少数者参与社会运动的考察——基于台湾与日本的事例比较——	2024年12月	2024 京都・ソルル 東アジア次世代フォーラムin Kyoto	
42	欧陽 珊珊	Breaking Barriers: Experiences of Disabled Queer Activists in Japan's LGBTQ+ Movement	2024年11月	第97回日本社会学会大会	
43	欧陽 珊珊	障害者女性における複合的抑圧とその抵抗——ある台湾の脳性麻痺でバイセクシュアル女性の経験を中心に	2024年9月	障害学会第21回大会	
44	欧陽 珊珊	台湾における性的マイノリティ運動と宗教団体の関係	2024年8月	第7回アジア未来会議	
45	堀江 有里	行為としての〈クィア神学〉——抵抗という手法を取り戻す	2025年6月	南山宗教文化研究所ワークショップ: 宗教はなぜ社会倫理を必要とするのか、南山大学	
46	堀江 有里	性的マイノリティの子育てにおける家族規範——「血縁」意識をめぐって	2025年9月	日本解放社会学会・第40回大会、中京大学	
47	岡田 桂	「スポーツにおける"性"の少数者とはだれなのか: ジェンダー／セクシュアル・マイノリティを再び架橋する」	2025年3月	成城大学スポーツとジェンダー平等国際研究センター「スポーツとジェンダー研究会」	
48	岡田 桂	「ジェンダーをセクシュアリティから見つめ返す: スポーツ・男性性・クィア」	2024年1月	スポーツ社会学会研究セミナー「スポーツをめぐる男性性権力とその交差性」明治大学	
49	梁 仁實	「1970年代日韓の映像における「在日」英雄と母の物語」	2024年6月	第50回日本映像学会、九州産業大学	
50	YANG, Insil	Silence” and “Voice” of First-Generation Zainichi Women in the Japanese Moving Image of the 1970s	2024年7月	AAS-in-Asia, Universitas Gadjah Mada, Yogyakarta, Indonesia	

51	梁 仁實	「1970年代日朝鮮の冷戦構図のなかの在日コリアン、そして韓国映画」	2024年10月	ソウル大学奎閣国際韓国学研究センターコロキウム(招待講演、韓国語)	
52	梁 仁實	「女性のディアスポラの生き方を表象すること『パチンコ』と『お疲れ様』を中心に」	2025年3月	梨花女子大学大学院国文学研究科、(招待講演、韓国語)	
53	柳原 恵	岩間香純氏報告及びカリナ・アウマーダ氏報告へのコメント	2024年8月	シンポジウム「日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム」	
54	西岡 亜紀	物語を動かすさまざまな表現～こえとえともじ	2024年10月	立命館大学国際言語文化研究所連続講座「〈物語〉を外からひらく研究角度」第1回「再編：語り直される〈物語〉の こえとえともじ」	
55	西岡 亜紀	土地を歩く、土地を書く ～三宮の柱、長崎の鐘～	2024年7月	『〈戦い〉と〈トラウマ〉のアニメ表象史：「アトム」から「まどか☆マギカ」以後へ』合評会日本アニメーション学会西日本支部第56回研究会(甲南大学)	
56	吉田 恭子	死者をよみがえらせる——Infinite Jestとクリーシェ	2024年	京大英文学会	
57	Kim-Wachutka, Jackie	Narrating “Zainichi”, Contesting Erasure: On the Threshold of Lieux and Milieu de Memoire of Diasporic Koreans in Japan	2024年10月	Joint Seminar, Associated Kyoto Program (AKP) & Doshisha University, Kyoto, Japan	
58	Kim-Wachutka, Jackie	Strategies of Resisting Silence: Ethnic Minority Women in Japan and the Proclamation of Intersectional Recognition	2024年10月	Joint Seminar, Associated Kyoto Program (AKP) & Doshisha University, Kyoto, Japan	
59	Kim-Wachutka, Jackie	Day, Year, Life — A Story of Aging in Japan	2024年6月	Screening & discussion, German East Asiatic Society (OAG), Tokyo, Japan	
60	Kim-Wachutka, Jackie	Fighting Against Hate Speech & Racial-Gendered Microaggression: Ethnic Minority Women and Intersectional Recognition	2024年3月	Association of Asian Studies Conference, Seattle, USA	
61	飯島真里子	Cultivating “Made-in-Japan” Coffee in US Hawai’i and Japan’s Taiwan	2024 年 12 月	メイド・イン・ジャパンのグローバルヒストリー、上智大学	
62	深石 葉子	JSL環境での外国ルーツ高校生の日本語・英語作文の伸びに関する兄弟比較—SNS 等の使用時間に着目して	2024 年 8 月	母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)学会 2024 年度研究大会	
63	深石 葉子	TOWL3 を基盤とした外国ルーツ高校生の 作文評価基準に関する試案	2024 年 12 月	立命館大学「東アジア次世代フォーラム」	
64	深石 葉子	外国ルーツ高校生兄弟の日本語作文の縦断的分析—作文判定基準試案による評価	2025 年 2 月	外国ルーツ児童・生徒の日本語教育支援を考える集い	
65	谷内 更紗	小学校国語教科書における外来語使用の変容—2014 年検定教科書と2024 年検定教科書を比較して—	2025 年 2 月	外国ルーツ児童・生徒の日本語教育支援を考える集い	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	日系移民の衣食住研究会	京都大学吉田南総合館	2024 年 12 月	18 名	マイグレーション研究会
2	グローバル時代の生きる伝統 ―メキシコ先住民アーティストの実践―	立命館大学衣笠キャンパス	2024 年 7 月	約 20 名	国立民族学博物館、神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート
3	辺境ラップに耳をかせ！ Listen to the vernacular voices of the frontier rappers!	立命館大学衣笠キャンパス	2024 年 12 月	約 80 名	国立民族学博物館
4	アジア民間説話学会 第 19 回大会	立命館大学 OIC	2024 年 11 月	60 名	
5	子守唄・わらべうた学会 2025 年大会	立命館大学衣笠キャンパス	2025 年 2 月	50 名	
6	2024 年度第一回モダニズム研究会 報告: 西成彦「ポーランドのモダニズム(?) と W・ゴンブローヴィチ」	衣笠キャンパス	2024 年 4 月	約 20 名	
7	2024 年度第二回モダニズム研究会 報告: 許鈴昕「中国のモダニズムと張囊」	衣笠キャンパス	2024 年 6 月	約 20 名	
8	岩本知恵『安部公房と境界―未だ／既に存在しない他者たちへ』書評会	衣笠キャンパス	2024 年 9 月	約 20 名	
9	ミニシンポジウム「中国における漫画とモダニズム」	衣笠キャンパス	2024 年 12 月	約 10 名	
10	垂水千恵氏講演会「日本語を壊し、創り、伝える: 台日越境作家を通じて考える日本語文学」	衣笠キャンパス	2024 年 12 月	約 40 名	【協力】京都大学人環・津守陽研究室
11	垂水千恵『台湾文学というポリフォニー: 往還する台日の想像力』書評会	京都大学吉田南キャンパス	2024 年 12 月	約 40 名	【協力】京都大学人環・津守陽研究室
12	楊佳嫻氏講演会「曖昧な身体、真実のパフォーマンス: 台湾クィア文学の最新事情」	衣笠キャンパス	2025 年 3 月	約 30 名	【協力】京都大学人環・津守陽研究室
13	ワークショップ アートと観光／まちづくり 秋田の事例から Part II	朱雀キャンパス	2025 年 2 月	10 名	
14	「やさしく(보드랍게)」上映＋監督との対話	衣笠キャンパス	2025 年 1 月	70 名	立命館大学コリア研究センター、大邱大学人文科学研究所
15	第 3 回産業社会部共同研究会「あの「眼差し」が熱い！～日タイ BL ドラマとファンダム～」	スウィングキッチン Your	2024 年 7 月	26 名	立命館大学産業社会学会
16	岡野八代『ケアの倫理―フェミニズムの政治思想―』書評会	立命館大学朱雀キャンパス	2024 年 5 月	33 名	
17	障害者における性のエンパワーメント(協賛)	オンライン	2025 年 2 月	24 名	主催: 立命館大学大学院先端総合学術研究科・院生プロジェクト「SOGI 研究会」
18	Graduate Seminar on Gender Studies (第 1 回)	衣笠キャンパス	2024 年 10 月		
19	Graduate Seminar on Gender Studies (第 2 回)		2024 年 11 月		
20	日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム	早稲田大学・ズーム	2024 年 8 月	対面 45 名、 オンライン 178 名	共催: 立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会・ラテンアメリカ探訪
21	立命館大学国際言語文化研究所連続講座「〈物語〉を外からひらく研究角度」	立命館大学衣笠・平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム	2024 年 10 月	30 名	
22	立命館大学国際言語文化研究所主催土曜講座	立命館大学末川記念会館	2024 年 9 月	80 名	衣笠総合研究機構
23	「太平洋世界の構築とその史的展開 公開研究会 竹田安裕子氏報告: リハビリと更生: 北マリアナ諸島と沖縄の民間人収容所における米軍政と抑留生活」	立命館大学朱雀キャンパス	2024 年 10 月 26 日	15 名	立命館大学国際言語文化研究所
24	西川長夫の研究の再検討	朱雀キャンパス	2025 年 3 月	36 名	

25	関西こども日本語教育・支援ネットワーク キックオフミーティング	大阪樟蔭女子大学・オンライン	2024 年 12 月	20 名	関西こども日本語教育・支援ネットワーク
26	外国ルーツ児童・生徒の日本語教育支援を考える集い	大阪樟蔭女子大学	2025 年 2 月	70 名	関西こども日本語教育・支援ネットワーク・大阪樟蔭女子大学国際英語学科

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	河原 典史	カナダへ渡った越後の人びと	2024 年父母交流会アカデミック講演会、アートホテル新潟駅前	2024 年 6 月 9 日
2	河原 典史	海を渡った立命館野球—創部 100 年を越えて—	京都中ロータリークラブ 第1430回例会、ホテルオークラ京都	2024 年 7 月 29 日
3	河原 典史	海を魅せつづける伊根浦の舟屋	京都を学ぶセミナー【丹後編】、京都府立京都学・歴史館	2024 年 9 月 2 日
4	河原 典史	同志社とカナダ移民	同志社EVEアカデミック企画 地域と大学をつなぐ 学術シンポジウム・博物館展示『 Broken Promises 破られた約束』、同志社大学今出川キャンパス良心館	2024 年 11 月 27 日
5	河原 典史	京都の街は碁盤の目ではない—秀吉の京都改造と京都市電の敷設—	同志社高校地歴部 OB 会、キャンパスプラザ京都	2025 年 2 月 9 日
6	河原 典史	幻の新渡戸庭園—『大陸日報』の分析から—	幻の新渡戸庭園公開講座、UBC アジア図書館（プリティッシュ・コロンビア大学）	2025 年 2 月 25 日
7	鶴野 祐介	子どもの替え歌と戦争	TBS 系テレビ番組「ニュース 23」	2025 年 2 月 21 日放映
8	岡本広毅	Recent Trends in Arthurian Studies and Publishing in Japan (Arthurian Studies from (about) Japan: Perspectives & Projects, organised by the International Arthurian Society [Japanese Branch])	Online (Google Meet)	2025 年 3 月
9	岡本 広毅	『ドラクエⅢ』から『ホビットの冒険』へ—RPGと〈パーティ〉の原風景(RPGで知る西洋の歴史)	NewsPicks	2025 年 2 月
10	岡本 広毅	エドガー、エドワード、そしてエド・シ—ラン—『FF VI』から滅びし王朝へ①(RPGで知る西洋の歴史)	NewsPicks	2024 年 11 月
11	岡本 広毅	英語の元祖ネイティブと〈エルフ〉—『ドラクエⅣ』から〈英文学の父〉へ(RPGで知る西洋の歴史)	NewsPicks	2024 年 7 月
12	ウェルズ 恵子	沈黙と暴力:物語ること、語らないこと、語れないこと	立命館大学国際言語文化研究所連続講演会	2024 年 10 月 25 日
13	宮下 和子	スティーブン・フォスター:アメリカと日本	鍛能会(福岡市天神ビル)	2024 年 6 月 29 日
14	加藤 昌弘	ポッドキャストをやってみたら、予想せぬつながりが生まれちゃった	名城大学社会連携フォーラム:ゆるくつながり創りだす	2024 年 11 月 28 日
15	猪熊 慶祐	ハロウィンとは何か?	下関商業高校生涯学習まちづくり出前講座	2024 年 7 月 4 日
16	中井 祐希	仏蘭西文学研究室の窓から見る戦間・戦中期日本文学	ライスボールセミナー発表	2024 年 11 月 14 日
17	加部 勇一郎	書評:城山拓也『中国漫画のモダニズム—葉浅予と王先生の物語』(関西学院大学出版会, 2023)	『立命館言語文化研究』36 巻 3 号, pp.21-24	2025 年 3 月
18	岡本 小百合	吉増剛造「ネノネ」展	虎ノ門 SIGNAL	2024 年 5 月 14 日-6 月 1 日
19	岡本 小百合	三田文学「吉増剛造特集」出版記念執筆会(二の三乗会)	虎ノ門 SIGNAL	2025 年 2 月 22 日
20	三須 祐介	〔講演〕我的台灣文學翻譯、教學與研究	國立清華大學中文系・王默人周安儀文學講座	2024 年 11 月 12 日
21	三須 祐介	〔講演〕《Drive My Car》:將我們載去何方?	白先勇清華文学講座(國立清華大學)	2024 年 11 月 13 日
22	Yuko Nakama	“Caspar David Friedrich — Found in Translation (Caspar David Friedrich und Japan)”,	Hegenbarth Sammlung, Berlin	

23	三木 順子	講演会「人はなぜ形をつくり、形を味わうのか ―Homo Pictor (描く人)の美学」	熊本県立大学 公開講演会	
24	橋本 真佐子	レビュー:「第 132 回 国際 ARC セミナー (竹中悠美教授)レビュー「浮世としての家庭空間―勝川春章《婦女風俗十二月図》の構図をめぐる試論」	『アートリサーチ』第 25 巻第 2 号、立命館大学アートリサーチセンター、オンライン	
25	中西 美徳	病院にアートを訪ねる研究会	尼崎だいもつ病院、耳原総合病院	
26	中西 美徳	モダン de 平野アーカイブプロジェクト	大阪市平野区	
27	金 友子	多文化共生社会づくりのための意識啓発―マイクロアグレッションを理解する	一般財団法人自治体国際化協会、2024 年度 多文化共生マネージャー養成研修、オンライン	2025 年 1 月 7 日
28	金 友子	日本におけるマイクロアグレッション: 大学という現場で考える	龍谷大学国際学部 2024 年度人権問題研修会、龍谷大学(オンライン)	2025 年 1 月 15 日
29	金 友子	たわいもない一言に潜む差別の芽―マイクロアグレッションって知ってますか?―	綾部市教育委員会(共催:綾部市人権教育推進連絡協議会)、2024 年度 人権を考えるセミナー、綾部市地域交流センター(あやテラス)(京都府綾部市)	2024 年 11 月 20 日
30	金 友子	在日外国人教育を進めるために ―マイクロアグレッションについて考える―	大阪府教育センター、2024年度府立学校人権教育研修C(在日外国人教育)	2024 年 10 月 23 日
31	金 友子	マイクロアグレッションを理解する:無自覚な差別・排除への気づき	関西学院大学人権教育研究室、関西学院大学 秋季人権問題講演会、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス	2024 年 10 月 11 日
32	金 友子	マイクロアグレッションを理解する:無自覚な差別・排除への気づき	関西学院大学人権教育研究室、関西学院大学 秋季人権問題講演会、関西学院大学神戸三田キャンパス	2024 年 10 月 4 日
33	張 瑋容	知っていますか?台湾のジェンダー平等はアジア屈指!フェミニズムが急速に変化を遂げた37年を社会学者が解説<Vol.1>	https://yoi.shueisha.co.jp/sexuality/sex/7888/	2024 年
34	張 瑋容	台湾の社会や人々はここまで変わった!ジェンダー平等教育法や同性婚の法制化から兵役制度の意識まで<Vol.2>	https://yoi.shueisha.co.jp/sexuality/sex/7889/	2024 年
35	張 瑋容	台湾の若者が政治や社会運動に関心を持つのはなぜ?台湾出身の社会学者が考える日本との違い<Vol.3>	https://yoi.shueisha.co.jp/sexuality/sex/7890/	2024 年
36	鳥山 純子	CMEIS「Book Launch」第 25 回(『「アラブの春」のアクチュアリティ:エジプト一月二十五日革命を中心にみるグローバリゼーション下の日常的抵抗』(複数名登壇))	CMEIS、オンライン	2025 年 2 月 27 日
37	鳥山 純子	「生き方を選ぶ自由―ジェンダーから見る平和ミュージアム」	平和友の会講演、立命館大学末川博記念館、第 2 会議室	2024 年 10 月 12 日
38	欧陽 珊珊	レインボーパレードを巡って―地域から生まれるアクティビズムの想像力	ふえみ・ゼミ「迷走するセクシュアリティ:運動と政治の間で」連続講座、東京赤羽ふえみ・ゼミ	2025 年 3 月
39	OUYANG Shsnahsan	The 2023 CTSG and CAPPE Gender, Sexuality and the Politics of Disability – Activist in Residence	The Centre for Transforming Sexuality and Gender, University of Brighton, UK	2023 年 6 月~7 月
40	岡田 桂	スポーツ界の片隅で「私の性 分類しないで」男女二元論の壁	毎日新聞 夕刊 取材	2024 年 7 月 13 日
41	岡田 桂	禁欲×スポーツ学	NHK はなしちゃお!! ~性と生の学問~ 取材	2025 年 2 月 14 日
42	柳原 恵	孕みの思想と産の思想―女性の身体経験から思想を産む―	第 192 回ともに公共する(生命開新)美学とともにデザインする只人の学び場	2025 年 3 月 26 日
43	柳原 恵	地方におけるフェミニズムって? ~戦後日本、岩手から声を上げた女性たち~	一般社団法人 we Re:Act	2024 年 11 月 30 日
44	柳原 恵	女性史にみるフェミニズム運動の可能性 ―新しい視座から歴史を掘り起こす	とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ	2024 年 9 月 21 日

45	小川真和子	「日本外交にとっての聖地:侍とクリスマス女性が見たワシントン DC」	立命館大学土曜講座 (立命館大学衣笠研究機構主催、立命館大学国際言語文化研究所企画)	2024 年 9 月 21 日
----	-------	------------------------------------	---	-----------------

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	仲間 絢	鹿島美術財団	鹿島美術財団賞	『雅歌』註解写本挿絵(Bibl. 22, fol. 4v, 5r)の考察 ―処女たちの 中 の 処 女 (virgo inter virgines)、花嫁としての聖母マリアの表象―	2024 年 5 月
2	欧陽 珊珊	国際ジェンダー学会	第6回国際ジェンダー学会研究活動奨励賞	障害者女性におけるセクシュアリティの探求と関係変容に関する考察―日台の当事者の経験を中心に	2025 年 4 月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	河原 典史	バンクーバー大都市圏の日本人ガーディナー:技術革新にともなう庭園・造園業の展開	基盤 (C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
2	河原 典史	カナダ政府文書にみる日本人移民の強制移動に関する歴史地理学研究	基盤 (C)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	代表
3	安保 寛尚	キューバ文学におけるヴァナキュラー文化の研究	基盤 (C)	2024 年4月	2027 年 3 月	代表
4	ウエルズ 恵子	ラブソングの大衆歌謡化に関する研究: : アメ리카世俗歌の歌詞系譜の中で	基盤 (C)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	代表
5	加藤 昌弘	開かれた国民共同体: スコットランドのディアスポラとナショナリズムの融合	基盤 (C)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	代表
6	中井 祐希	戦間・戦中期文学における東京帝国大学仏蘭西文学科の影響と展開に関する研究	若手研究	2024 年 4 月	2026 年 3 月	代表
7	西 成彦	亡命作家ゴンブローヴィチの言語遍歴のなかのフランス語に関する比較文学的研究	基盤 (C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
8	内藤 由直	クラルテ運動の光と影;プロレタリア文学と民族主義の問題	基盤 (C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
9	三須 祐介	中国伝統劇の「記録」と「記憶」に関する研究	基盤 (C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
10	石川 まりあ	不可知の表象: 19 世紀アメリカ文学と知の限界をめぐる認識論	研究活動スタート支援	2023 年 8 月	2025 年 3 月	代表
11	石川 まりあ	世俗の不可知: 19 世紀アメリカ文学と日常の社会哲学	若手研究	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
12	山崎 遼	スコティッシュ・トラベラーの自伝における自己表象	研究活動スタート支援	2024 年 4 月	2026 年 3 月	代表
13	佐藤 量	満洲引揚者の社会移動と生活再建をめぐる歴史社会学的研究	基盤研究 (C)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
14	中村 仁美	独立後のアイルランドにおける文芸誌の諸相とその躍動	基盤研究 (C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
15	國司 航佑	ジャコモ・レオパルディの「自由カンツォーネ」に関する研究	若手研究	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
16	有田 節子	時空間マッピングの認知的基盤に関する理論的・実験的研究	基盤研究 (B)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	分担
17	田浦 秀幸	胎生期のバイリンガル体験が生後半年間の受動的言語処理に及ぼす影響	挑戦的研究 (萌芽)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
18	田浦 秀幸	日英バイリンガル言語習得・喪失メカニズム解明包括 (言語・脳神経・眼球運動) 研究	基盤研究 (B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
19	滝沢 直宏	英語の ly 副詞の記述的研究および副詞辞典編纂のための辞書学的研究	基盤研究 (C)	2019 年 4 月	2025 年 3 月	代表
20	仲間 裕子	風景と近代的メランコリーの美学	基盤研究 (C)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
21	仲間 裕子	近現代美術における死生観の研究～「ヴェニタス」表象を中心に	基盤研究 (B)	2020 年 4 月	2024 年 3 月	分担
22	仲間 裕子	美術史からみるドイツ・北欧と日本の皇室外交	国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	2023 年 9 月	2028 年 3 月	協力

23	仲間 裕子	英国前衛美術に見る琳派受容——その造形的ならびに思想的側面の研究——	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	協力
24	竹中 悠美	ニューヨーク近代美術館における写真史編纂の系譜学	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2026 年 3 月	代表
25	住田 翔子	土地整理期絵図と SLAM 型レーザー測量を利用した琉球村落空間の地理学的研究	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2026 年 3 月	分担
26	仲間 絢	『雅歌』の花嫁神秘主義の美術史学研究	若手研究	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
27	西岡 亜紀	福永武彦を通じた 1940 年代の若手文学者の知的ネットワークの総合的研究:軽井沢を軸に	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
28	西岡 亜紀	「ハイジ現象」の国際的伝播とメディア横断的展開についての研究	基盤研究(B)	2019 年 4 月	2024 年 3 月	分担者
29	西岡 亜紀	ツーリズムにおける異文化間コンフリクトと創造的対話に関する理論的・実証的研究	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	分担者
30	吉田 恭子	英語圏モダニズム文学における複数の時間性に関する包括的研究	基盤研究(B)	2020 年 4 月	2024 年 3 月	分担
31	吉田 恭子	デイヴィッド・フォスター・ウォレスの長編におけるメンタルヘルスの表象	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	代表
32	田尻 芳樹	英語圏モダニズム文学における複数の時間性に関する包括的研究	基盤研究(B)	2020 年 4 月	2024 年 3 月	代表
33	澤西 祐典	芥川龍之介の旧蔵書・洋書に関する基礎的研究:非英語圏文学を中心として	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
34	澤西 祐典	近代作家旧蔵書群を対象とする調査・保護・データ化と横断的分析に関する総合的研究	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	分担
35	土肥 秀行	未来派を読み返す—宣言文文学の新たな地平へ	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
36	中村 仁美	独立後のアイルランドにおける文芸誌の諸相とその躍動	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
37	金 友子	マイクロアグレッション概念の社会的含意に関する研究——在日朝鮮人を事例として	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
38	岩川 ありさ	大江健三郎の小説における多様な女性たちの語り —性別越境を視座として	若手研究	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
39	張 瑋容	ファンタジーの存在論にみるジェンダー攪乱——ボーイズ・ラブに関する系譜学研究	若手研究	2020 年 4 月	2024 年 3 月	代表
40	鳥山 純子	中東北アフリカ地域における遺産形成の批判的研究—移動の視点から	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
41	山本 めゆ	南アフリカの人種秩序とアジア人の中間性に関する社会学的研究	若手研究	2024 年 4 月 1 日	2029 年 3 月 31 日	代表
42	山本 めゆ	現代世界の危機に対処する集合的創造性に関する日常人類学的研究	基盤研究(B)	2021 年 4 月 1 日	2026 年 3 月 31 日	分担
43	梁 仁實	東アジアのトランスナショナルなネットワークと在日コリアンの映画運動の社会史	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
44	柳原 恵	現代日本フェミニズム史再考—ミニコミ誌とライフストーリー・インタビューの分析から	若手研究	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
45	岡野 八代	フェミニズム理論による新たな国家論の構築——ケア概念と安全保障概念の再構想から	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
46	加藤 政洋	米軍統治下の沖縄における〈消費の空間分化〉に関する社会地理学的研究	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
47	RAJKAI, Zsombor Tibor	家族の社会学的研究におけるパラダイムの形成と転換の国際比較研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	代表
48	松本 克美	性的被害に対する損害賠償請求権の消滅時効論—解釈論・立法論の現代化	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2025 年 3 月	代表
49	竹村 朋子	社会的認知理論にもとづく高齢者のデジタル・ディバイドの要因および影響の研究	若手研究	2020 年 4 月	2025 年 3 月	代表
50	大村 和正	政策・制度の狭間におかれた若年生活困難層の社会的包摂—ケイパビリティの観点から	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
51	Kim-Wachutka, Jackie	Multi-ethnic Aging and Cultural Needs Within Japan's Long-Term Care Insurance System	基盤研究(C)	2019 年 4 月	2025 年 3 月	代表
52	小川 真和子	ハワイにおける日系水産業の歴史的展開と太平洋史の構築への模索	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	代表

53	飯島 真里子	1850～1930 年におけるサンギュリテ作品の交易発展—輸出振興と情報プラットフォーム	基盤研究(B)	2024 年4月	2028 年 3 月	分担
----	--------	--	---------	----------	------------	----

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	猪熊 慶祐	「解放」を手がかりに日本の黒人文化受容史を読み解く	公益財団法人ヒロセ財団	2024 年 12 月	2026 年 10 月	分担
2	京都文学レジデンスー 実行委員会	第三回京都文学レジデンスー	Arts Aid KYOTO 京都市 連携・協働型文化芸術支援制度補助金 実績報告書【通常支援型「一般助成枠（A・B）」	2024 年	2025 年 3 月	代表
3	欧陽 珊珊	台湾における障害者運動と性的マイノリティ運動の連携の変遷に関する調査	生存学研究所 2024 年度若手研究者研究力強化型「国際的研究活動」支援（後期）	2024 年 10 月	2025 年 3 月	代表
4	欧陽 珊珊	障害と性的マイノリティ性の交差に関する社会学的研究	松下幸之助記念志財団研究助成	2023 年 10 月	2024 年 9 月	代表
5	欧陽 珊珊	「障害のある性的少数者」の若者がいかに社会運動に参加しているか：日本とドイツにおける LGBT 運動の比較から	山岡記念財団「日本と欧州（ドイツ語圏）の若者文化・ライフスタイルの研究」助成	2023 年 4 月	2024 年 1 月	代表
6	YANG, Insil	Representation of Zainichi Korean in Korean Films in Cold War Period,	ソウル大学奎章閣国際韓国学研究センターフェローシップ研究助成	2024 年 3 月 1 日	2024 年 8 月 31 日	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国